

# 外 国 語

## 英 語（筆記）

### 第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

#### 1 前 文

平成 21 年度大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）は、ほぼ昨年度の問題形式を踏襲し、多様な問題に対応する実践的コミュニケーション能力や、精読だけではなく、用途に合わせた様々な読解力が求められる問題が見られたことが特徴であろう。全体的には易しいものからやや難しいものまであり、バランスのとれた試験問題であった。

平成 21 年度の「英語（筆記）」の本試験受験者はセンター試験参加大学数が過去最高であったこともあり、昨年度の 497,101 人から 500,297 人へとやや増加した。センター試験受験者の約 99%がこの科目を受験しており、受験者や高等学校関係者のみならず、各方面からの関心も高い。一昨年度来のセンター試験「英語（筆記）」の問題形式の変更や、総使用語数の増加により、授業のあり方にも影響を与えようと考えられる。

平成 21 年度センター試験「英語（筆記）」を検討・評価するに当たり、そのよりどころとしたものは従来どおり以下の三つである。

- (1) 「高等学校学習指導要領」
- (2) 平成 21 年度大学入試センター試験出題教科・科目の出題方法等

『英語』は、「オーラル・コミュニケーションⅠ」及び「英語Ⅰ」に加えて、「オーラル・コミュニケーションⅡ」と「英語Ⅱ」に共通する事項を出題範囲とする。

- (3) 「平成 20 年度大学入試センター試験 試験問題評価委員会報告書」

また、主に検討・評価した項目は、内容・範囲、分量・程度、表現・形式等についてである。

今年度の本試験の平均点は 115.02 点（100 点換算 57.51 点）で、昨年度の 125.26 点（100 点換算 62.63 点）を 10.24 点下回った。これは過去 5 年間で一番低い点数であるが、問題作成の際の目標平均点が 120 点（同 60 点）程度に設定されていることを考慮すると、やや難化はしたが、適切な問題であったと言える。

#### 2 試験問題の内容・範囲等

全般的に、問題は平易な英文で構成されており、的確に内容を読み取る能力を問うものであった。語いは文脈から無理なく推測できる範囲のものと思われるが、一部にやや難しいものも見られた。

第 1 問 A 昨年度同様、単語の発音問題が出題された。学習上留意すべき基本的な単語の発音が多かったが、問 1 の **comfort** は第一アクセントではない母音なので戸惑った受験者がいたかもしれない。日ごろから母音、子音にかかわらず正確な発音の仕方を身に付けているかどうか問われた。

第1問B 昨年度は音の強弱を黒丸の大小で表し、それと同じ強勢型を持つ語を選ぶ形式で、受験者にも分かりやすく、正答率も高かったが、今年度は与えられた語と第1アクセントの位置が同じ語を選ぶ形式となった。出題された語はどれも基本的な語であったが、音節が示されていないこの形式での出題は久しぶりで、視覚的なサポートなしでも音節を意識し、発音できるかどうか問われた。

第1問C 昨年度に引き続き、特定の語を強調した場合の話者の意図を問う問題が出題された。受験者には解きやすかったと思われる。問題数が昨年度までの3問から1問に減り、配点が2点から3点になった。

第1問D 下線を引いた一文中にいくつかある、強く発音する部分の位置を問う新傾向の問題が出題された。強く発音する6か所に黒丸が付いていて、その黒丸の付け方の正しいものを選ぶ問題であった。状況を説明する前文を意識しすぎて、戸惑った受験者がいたかもしれない。

第2問A 昨年度同様、文法・語い・語法の空所補充問題が10問出題された。長年続いている問題形式で、基本的な知識の定着度を測るためには効果的である。今年度は、ほとんどが語い・語法の知識を問う出題であり、場面や文脈に応じた語句の使い方が問われた。特に、問5の“egg”がこの場合、不可算名詞であることや、問10の“run”が「伝わる、遺伝する」の意味であることなどは難しかったと思われる。また、今年度は10問中4問が対話文となっていたり、英文の量が全体的に増加したり、問3や問6のように選択肢が紛らわしいものもあつたりして、例年より解答に時間がかかった受験者もいたと思われる。

第2問B 会話文を完成させる問題。語数も昨年度より増え、内容もやや複雑である。“I'll tell you what.”のような会話表現の知識や、“I can't agree with that.”と“I couldn't agree more.”の紛らわしい表現の違いなどが問われ、昨年度に比べてやや難しかった。

第2問C 語句整序問題。例年どおり問題数は3問だが、最初の状況説明の分量が増え、選択肢の数が昨年度までの五つから六つに増えた。問1では関係代名詞の省略、問2では“book”の動詞としての用法、問3では仮定法過去完了における条件節の“if”を省略する場合の倒置など、文法の知識が問われている。特に問3は条件節が後置されていて難しかった。

第3問A 昨年度同様、文章中の未知の語や慣用句の意味を推測する問題が出題された。問1で与えられる文が会話文になったが、昨年度より使用語数が少なく、取り組みやすかった。

第3問B 昨年度の学校新聞の記事で述べられた意見の要約を選ぶ問題から、一昨年度のディスカッションでの発言を要約する形式に戻ったが、発言者の意図を正確に理解する力が問われていることに変わりはない。「友人関係」という身近なテーマで、それぞれの発言は基本的な文法事項や平易な語句を使って書かれているため、取り組みやすかった。

第3問C 与えられた場所に適する内容を選ぶものを選ぶ問題。一昨年度は文脈にふさわしい文を、昨年度は文の一部を選んだが、今年度は両方が混在している。特に[32]のように、段落の最後の1文を選ぶ問題は、英文の内容理解だけでなく、文章構成能力や結束性に関する知識を問う問題となっており、出題意図を反映した問題であったと思われる。[33][34]は前後関係からふさわしいものを選ばなくてはならないが、紛らわしい選択肢もあり、やや難しかったと思われる。ここでは昨年度、一昨年度と時事問題に関する内容がテーマとして選ばれているが、ふだんから様々なテーマの英文に触れておくことが必要であろう。

第4問A 説明文とグラフから必要な情報を読み取る問題。昨年度は、表を使った出題であったが、今年度はグラフの出題に戻った。設問は、数年続いた、質問に対する正しい答えを選ぶ形式から、空所に入れる最も適当なものを選ぶ形式に変わった。また、本文中の空所補充問題がなくなり、グラフ自体も以前ほどの細かな読み取りは不要であった。しかしながら、問1では紛らわしい比較表現の錯乱肢があり、問2では、設問に“suggest”を使っていることから分かるように、英文とグラフのどちらにも明確には書かれていないことを類推しなくてはいけない問題であった。また、問3は“rainforests are”という書き出しに続けるため、本文全体の内容にかかわるそれぞれの選択肢の正誤を確認せねばならず、時間がかかった受験者がいたと思われる。

第4問B 昨年度、一昨年度と、英語で書かれた広告から正しい情報を読み取る問題であったが、今年度は「病院の問診票」を読み取る問題であった。設問が先に提示され、必要な情報を得るためにスキミングの技術を要する問題であるが、このような技術は実際に海外での様々な場面で必要である。問2は、複数の条件を考慮して計算しなくてはならなかった昨年度の問題と比べ、かなり取り組みやすい問題であった。

第5問A 昨年度より、非言語視覚情報であるイラストや絵を適切に説明する文を選ぶ問題となった。“drum major”の絵であったが、“drum major”という言葉になじみがない受験者も多かったのではないかと思われる。また、選択肢は外観描写以外の情報も含まれており、使用語数が150語以上増えた。

第5問B 説明文に合う絵を選ぶ問題。昨年度は抽象画の形状や位置関係を問う問題であったが、今年度は「橋の構造」について、ふさわしい絵を選ぶ問題であった。内容がやや専門的であり、また、橋のどの部分についての説明なのかイメージしにくかった分、昨年度の問題より難しかったと思われる。

第5問C 漫画を適切に説明する文章を選ぶ、昨年度からの新傾向の問題。「引越し中の失敗」を描写した漫画の内容としてふさわしい英文を選ぶ問題であった。昨年度の「アーチェリーの練習」では、各選択肢が英文4文で構成されており、1コマが英文1文と対応していたが、今年度は5文ずつで書かれており、使用語数も若干増加した。また、どの選択肢も似たような内容であったので、それぞれの選択肢から手掛かりを見つけ、正答を導くのにやや時間がかかった受験者もいたのではないかと思われる。

第6問 昨年度、例年の物語文から論説文の読解問題へと変更になった。今年度は「辞書の使用目的の違い」についての説明的なエッセイが題材であった。本文・設問・選択肢とも使用語数は微増であったが、第5問までの総使用語数がかなり増えていたので、時間を十分確保できなかった受験者もいたかもしれない。内容的には、辞書という受験者にとっては身近な話題であり、“bilingual dictionary”と“monolingual dictionary”の対比を意識した読解が求められた。昨年度から出題されるようになった問6の段落構成を問う問題は、今年度は対象範囲がすべての段落へと広がった。問3の本文にない具体例についての設問や、問7のように“The writer implies that”と本文中に明確には述べられていない、間接的な内容を尋ねる設問などは、今までになかったタイプの設問であった。また、問4は選択肢がすべて本文中に述べられている表現や、それに関連する表現を用いた錯乱肢であったため、やや難しかった。

### 3 分量・程度

設問数は出題形式の一部変更のため、昨年度より1問減り47問（マーク数50）となった。設問数としては適切であったが、昨年度より4,000語を超えた総使用語数は、今年度も第2問、第5問を中心に更に増加しており、かなりの分量を読まねばならず、受験者の中には時間が足りなかった者もいたのではないかと思われる。ふだんから短時間で効率よく読む練習や、与えられた題材から必要な情報を的確にとらえる練習など、高等学校における授業中の言語活動のあり方を更に工夫するよう示唆を与える問題であった。

また、平均点が示すように、昨年度よりやや難しい問題が増えたが、全体として、高等学校の英語の基本的な学習内容を網羅した適切なものであった。問題の難易度については次の表に示すとおりである。

#### 本試験の出題内容、設問数、配点、難易度

	出題内容		設問数	1問当たりの配点	配点	難易度	
第1問	音声	A 単語発音	3	7	2	16	☆☆
		B 単語第一強勢	2		2		☆
		C 文中単語強勢の意図	1		3		☆
		D 文中単語強勢の箇所	1		3		☆☆
第2問	文法・語い・会話の定型表現	A 文法・語い・語法	10	16	2	44	☆☆☆
		B 会話文の完成	3		4		☆☆
		C 語句整序	3		4*		☆☆☆
第3問	論理・談話構成を問う読解	A 語句・文意推定	2	8	4	44	☆
		B 意見内容の要約	3		6		☆
		C 文補充	3		6		☆☆
第4問	図表や広告等を用いた説明文の読解	A グラフと文章の理解	3	6	6	36	☆☆☆
		B 文書内容の理解	3		6		☆
第5問	絵や漫画に関する説明文の読解	A 絵を説明した文の選択	1	3	6	18	☆☆
		B 文章理解と絵の選択	1		6		☆☆☆
		C 漫画を説明した文の選択	1		6		☆
第6問	エッセイの読解		7	6	42	☆☆	
平均点		115.02点 (昨年度 125.26点)	47問	2~6点	200点		

- (注) 1 4\*は空所が両方正解の場合のみ点を与えられる。  
 2 難易度については、おおよその正答率に基づき、次のように表記する。  
 ☆☆☆：やや難  
 ☆☆：標準  
 ☆：やや易

## 4 表現・形式

内容については、昨年度、一昨年度と2年連続で出題形式に大幅な変更があったが、今年度は小さな変更にとどまり、ほぼ昨年度の形式を踏襲した。しかしながら、従来どおり、発音・アクセント、文法・語法、対話文・会話文、語句整序、図表や絵に関する読解、長文読解と幅広い分野、形式の出題で、実践的コミュニケーション能力と読解力を重視する傾向が更に強くなっている。

## 5 要 約（意見・要望・提案等）

### (1) 要約

- ① 高等学校学習指導要領及び高等学校教科書等に基づき、高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定する問題として適切である。
- ② 出題形式や配点に若干変更があったが、出題の意図を考慮すると、適切なものであった。
- ③ 昨年度よりも総使用語数が増え、受験者に負担感が増した。
- ④ 様々な難易度の問題が出題されており、全体的には目標とする平均点に近い値になった。
- ⑤ 昨年度同様、実践的コミュニケーション能力を重視した英語学習の成果を問う問題として妥当であった。

### (2) 意見・要望・提案等

- ① 出題形式の大幅な変更がある場合には、前もって公表していただきたい。
- ② 語の発音や強勢の問題はコミュニケーションの基礎知識として重要なものであるので、出題内容・出題方法を工夫し、今後も継続していただきたい。
- ③ 第2問Aの問題は、今後も語法と文法のバランスを考えて、どちらかに偏ることなく出題していただきたい。
- ④ 第3問Cの文章構成能力を問う問題では、引き続き、その意図が十分生かされる出題をお願いしたい。
- ⑤ 今後も説明文、物語文、会話文など、様々な種類の文章をバランス良く出題していただきたい。
- ⑥ 第4問の情報処理能力を問う問題や、第5問の非言語視覚情報に関する説明文の読解は、実践的コミュニケーション能力を問う良い出題であると思うが、受験者が混乱なく取り組めるように、出題内容や表現の仕方を更に工夫していただきたい。
- ⑦ 今後も問題に取り上げる題材の内容は偏りがないようにしていただきたい。
- ⑧ グラフや表などの統計データは、なるべく最新のものを使用していただきたい。
- ⑨ 試験時間を考慮し、適切な使用語数を検討していただきたい。
- ⑩ 今年度は、本試験にも追・再試験にも単語のつづり間違いによる問題訂正があったが、今後はそのようなことがないように細心の注意を払っていただきたい。

本試験の出題に際しては、様々な面で十分な配慮がなされていることがうかがえるが、平均点や問題の難易度、分量の点で今後も適正な出題をお願いしたい。